

城のある都市復活

福岡城だより

2012.4

APRIL

No. 33



天守台からの展望 (写真：西鉄広報部・中村明子)

地域資源を活かした

地域活性化の推進

福岡商工会議所 会頭 末吉 紀雄



昨年3月に九州新幹線鹿児島ルートが全線開通し、この1年で予想を上回る乗降客数を記録するなど、関西方面から多くの観光・ビジネスの交流が活発化しています。また、国際化や経済のグローバル化が進展するなか、とりわけ地理的にアジアに近接している福岡においては、今後さらに、国内外との人的・物的な交流の拡大が期待されています。

これを好機と捉え、地域の歴史・文化・産業等を素材として福岡の魅力を積極的に発信し、一層の集客促進を図ることが課題です。そのためには、空港・港湾・道路などの社会基盤の整備・充実にあわせて、案内サイン等の言語表示や、市民一人一人のおもてなしの心の醸成など、観光面でのソフトの充実も必要であると思われます。

「鴻臚館・福岡城 歴史・観光・市民の会」におかれましては、鴻臚館や黒田藩などの歴史を振り返り、今に伝えながら郷土愛を育むとともに、地域をあげて賑わい創りに取り組まれておられます。皆様の熱心な活動に対し深く敬意を表します。

福岡商工会議所といたしましても、地域の特性や固有の資源など活かした集客交流や産業振興を図り、地域の活性化に努めてまいりますと存じます。

「福岡城・鴻臚館の将来に向けた市民参加プロジェクト」最終報告

福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会 会長 石井 幸孝

昨年9月から始まったこのモデル事業も、本年3月24日の第2回「市民フォーラム」をもって、本年度の活動が終わりまし。以下に概要を報告いたします。

事業の概要

民間・行政共働で、福岡城・鴻臚館と周辺エリアの歴史や現在の課題、可能性などについて広く市民に情報提供し、多くの人々の参加を得て、その望ましい将来の姿について議論する。それらを通して、観光ポテンシャルの向上も見据え、今後の整備計画に対する市民意見の反映を行い、望ましいまちづくりの推進をはかる。

1 福岡城・鴻臚館を市民が知るための事業

福岡城・鴻臚館めぐりツアーを12月10日より3月17日まで、毎土曜日午前・午後各2時間コースで、ガイド付き案内ツアーを実施した。5つのテーマ別コースで、参加実績は105名。またボランティアガイド研修も行った。

2 福岡城・鴻臚館跡を、福岡市のまちづくりにつなぐ仕組みづくり

既存のまちづくり団体や「お濠端会」、近隣学校関係と個別協議を進め、幅広いまちづくり協議会のような市民組織活動を展開すべく、2月15日準備会、3月21日まちづくり大会を開催した。ワールドカフェ（グループディスカッション）方式で課題を浮き彫りにした。参加約15団体、約30名。

3 将来のエリアのあり方を広く市民と考え、産・学・官・民の施策、活動に反映する

第1回市民フォーラム「福岡城・鴻臚館を観光都市福岡のランドマークに」 1月10日、アクロス福岡4F国際会議場で開催。本実行委員会主催、

NHK共催、映像と模型で見る「福岡城の在りし日の姿」、スピーチ「天下の福岡城と多彩な城下町」、スピーチ「福岡城と似ている金沢城からのメッセージ」、トークセッション。参加約200名。アンケートをとった。

まとめ・48万㎡の福岡城と4万8千㎡の鴻臚館の国指定史跡が重なっている珍しいところである。しかもどちらも史跡・文化財として1級品の潜在価値を持っている。観光都市福岡のランドマークになる資質がある。

国指定の史跡になって約50年間現状維持を福岡市民が選択してきた結果として、森林化して石垣が見えない、天端の太木で石垣が孕んでいる。鬱蒼として散策しにくい。反面緑豊かな都心の森林地区になったという見解もある。

今後の50年に向けての宿題

① 文化財の保存整備と緑化保存との関係整理が福岡市民に問われている

② 鴻臚館（1000年ほど前）と福岡城（3000年ほど前）の保存整備の調和をどうするかが福岡市民に問われている

第2回市民フォーラムを、同テーマで3月24日に開催。本年度モデル事業の活動報告の後、3人の学識経験者による特別講演「舞鶴公園は福岡市のランドマークとなりうるか」「文明のクロスロードだった鴻臚館」「福岡城の魅力と今後の整備活用について」の後、市民コメントターや行政も交えてパネルディスカッション「今こそ活かそう！都心の48万㎡そのためにできること」を行い、多くの提案や意見が出た。

4 部外委託調査「福岡城・鴻臚館に関する市民意識調査の実施」 および「福岡城・鴻臚館を整備した場合の経済波及効果に関する調

査」を12月15日福岡アジア都市研究所と契約、3月21日報告書を受理した。市民意識調査は、インターネット調査（A）、福岡城周辺地域住民調査（B）、フォーラム来場者調査（C）の3グループからなり、福岡城・鴻臚館への関心度がA55%、B78%、C98%であり、福岡城訪問経験がA40%、B58%、C77%、鴻臚館訪問経験がA22%、B29%、C50%といったように、一般市民の意識の低調さが際立った。経済波及効果調査では多くの仮定の上の試算ではあるが、福岡城や鴻臚館を復元整備した場合、投資額（福岡城約75～120億円、鴻臚館約90億円）に見合う初期投資効果のほか、それを上回る観光集客効果が毎年見込まれるなど報告され、今後内容精査・検討すべき重要課題と認識された。

5 2月7・8日金沢城およびその金沢観光への活用実態の調査研究

を行い、行政主導・市民協力の積極的な金沢城復元整備の推進ならびにその活用による観光都市戦略（大河ドラマも上手に活用しながら）は目を見張るものがあり、今後の福岡城活用と観光都市戦略の方向付け議論に大いに参考になった。

6 このプロジェクトは「NPO支援重点化枠」であるので、実行委員会事務局のNPO鴻臚館・福岡城歴史・観光市民の会の強化に繋がる方向も考慮し、その体制強化、事務局員の積極活動による経験の蓄積、プロジェクトのホームページとリンクしたNPOのホームページのバージョンアップもはかった。

7 市民意見募集「あなたならどうしますか？福岡城・鴻臚館。都心の48万㎡について」第2回市民フォーラムで発表・優秀なものについては表彰も考えたが、目下7名の参加しかなく提意見は4名だけなので、引き続き募集することとし、第2回市民フォーラムでも用紙を再度配り、「ふるって意見お寄せ下さい」と募った。

※活動から得られた成果…（1）「福岡城・鴻臚館を観光都市福岡のランドマークにしよう」が市民・行政・

各界に浸透し、観光客増加の起爆剤にしようという新しい動きが出てきた。

（2）従来低調であった福岡城・鴻臚館に対する市民理解が促進され、お城まちな歩き・まちづくり参加も逐次増加してきている。また同時に文化財保護・保存と緑化推進との一見相矛盾する対立点や、大形駐車場整備の可否などの課題も顕在化してきた。市民に投げかけられた今後の課題になってきた。

（3）行政リード形での多年の難問に市民感覚がブレイクスルーのきっかけをつくり、規則・規制の枠を超えた案の打開策に課題がシフトすることになる。

（4）小回りの利くNPOがインキュベーターの役割を担うことにより、スピーディーで、形式行為にこだわらない効率的な事業推進がはかれた。3ヶ月に2回の「市民フォーラム」の開催や着実な城内「まち歩き」ツアーの実行など。

（5）福岡城・鴻臚館が市民により身近な存在となり、郷土愛の醸成、整備・復元への清掃活動や募金運動・大河ドラマ誘致・子供盆踊り大会の提案など24年度事業の展開への動きに繋がっている。

（6）事務局を受け持ったNPOの強化に繋がる取組みも進み、一方今後一層の充実ニーズも見えてきた。

（7）「新しい公共」モデル事業から「新時代の市民・行政協働」事業への取り組みへの基礎作りになった。

※おわりに
行政、民間の幅広い構成による、実行委員会活動は多様な成果をあげたと思われ、また市民意識の昂揚もいささかあったのではないかと思考する。また平成24年度に向けては、福岡城・鴻臚館を活用した観光浮揚等への行政の取組みにも新しい動きが出てきた。福岡市の組織も経済文化観光を一体的に司る局に衣替える。また福岡城内に「福岡城むかし探訪館」が開設される。新年度にも本プロジェクトを継続申請し、より積極的な活動をしていきたい。

「福岡城むかし探訪館」オープン

平成24年4月6日に福岡城の歴史を伝える資料や福岡城復元模型の展示と休憩スペースとして「福岡城むかし探訪館」がオープンしました。

福岡城市民の会とアクティオ（株）の共同事業体が福岡市の委託を受けて、事業を進めます。主に観光客の皆様や市民の方々が福岡城に来られたときにご案内などをいたします。会員の皆様も、ぜひお立ち寄りください。



福岡城探訪

櫓シリーズ

時打櫓と古時打櫓

藩内治政と武家社会の安定した秩序を守る象徴的なものが、定められた「時」の知らせである。日本では、古来、中国から伝わった「太陰暦」を使用し、月の満ち欠け（約29日周期）をベースに、日の出・日没を中心に、一日を12に割って、時を定めていた。

江戸時代の時の定めについては、細かくは他に譲るとして、福岡城本丸台地の一番北側に張り出した石垣囲いの上には、2層の「時打櫓」があった。東・西・北面を一望できる位置にあり、恐らく、「明け六つ」「太陽が東の連山の一面に差し昇る時を合図に、大太鼓を打ち鳴らす役目、或いは、非常時に振れ太鼓を打ち鳴らす太鼓櫓の役目を持っていたと思われる。



時打櫓

古時打櫓



時打櫓（御時櫓）跡

一方、本丸裏御門に備え付けられた「古時打櫓」は、「伊之助櫓」とも云われ、係は伊之助一門の役目であると、古書に記されている。恐らく、城内の諸掛かりの時刻を知らせる太鼓の

係であったのだろう。本丸や二の丸、三の丸屋敷とは、頃合いの位置にあり、城内での生活のキマリを告げる重要な櫓であったと思われる。更に城内の太鼓の時の知らせが、城下町へ広がり、やがて博多の町々へも伝わって、町人の生活リズムに活かされていた。

武具櫓

福岡城の武具櫓は、東三階櫓から西三階櫓の間に連なる長屋式の二重二階の櫓で、天主台南側に面する南二の丸の庭を囲むように建てられていた。

櫓には、戦いに備えて武器が格納されていた。大正8年（1919年）、旧黒田家別邸の浜御殿（現 浜の町）に移築されたが、昭和20年（1945年）に空襲で焼失した。しかし、大正以前、古写真や浜御殿移築時代の古写真が残っており、外観は良く解っている。



武具櫓跡地

お城を支える様々な櫓

お城の櫓は、和戦両用の備えで構築されている。その役目を背負って、それぞれ、日々の任務に適した場所、且つ城郭としての姿が美しく見える場所に位置付けられている。

食料の要となる塩櫓や炭・燃料や米櫓、井戸水場を確保する櫓、皮革品を収納している草櫓、漆を塗って紙の質を強度にし、油を引いて格納している洪皮櫓、倉庫的役割の長櫓など、城内での長期戦に備える諸設備の櫓が大小様々あり、儀式祭祀の道具等を収納する櫓や犯罪者や未決囚を閉じこめる牢屋的な生け捕り櫓などもあった。

その昔から47櫓と言われているが、その建物の姿が不明なものもある。

福岡本城三の丸台地の4隅の内、西側の南北隅には、先に記したように、花見櫓と潮見櫓があったことは明らかなので、東側の南北隅にも、それぞれ隅櫓があった筈であるが、詳細は不明である。古地図には、櫓跡とのみ記されている。

記録によると、初代藩主長政公の夫婦の住まいの御殿は、築城早々の頃は、三の丸（東丸）にあった。正保3年（1641年）の「福岡惣絵図」にも「屋くら跡」と記されている。この南北にある二つの三の丸櫓は、文禄慶長の役の折り、肥前名護屋城の櫓として構築されたものを、豊臣秀吉の死後、移築したものではないかとあるが、その後、豊臣ゆかりの櫓では、徳川政権に悪かうとの気兼ねもあって、破却したのではと推測されている。

その後、東三の丸は、黒田家重役の邸宅地となり、第一期は、黒田24騎の一人であった栗山備後（栗山大膳の父）の屋敷となり、第二期目は、同じ重役の一人であった立花実山の屋敷となった。

戦後、高等裁判所が建てられたが、これも近年中に引越しをする予定になっており、史跡地に戻ります。

（記 福岡城市民の会事務局 岡部定一郎）

第51回 福岡市民の祭り

博多どんたく 港まつり

祝うたア!!
甦れ 福岡城!



◆五月三日（祝・木）十時〜十八時
◆五月四日（祝・金）十時〜十八時

今年のどんたくは「祭りてつなごう元氣と絆」をテーマに開催されます。

「福岡城どんたく演舞台」は八回目を迎えますが福岡城むかし探訪館東側に舞台を設営しました。

演目は、三日は筑前琵琶、日韓交流力や舞踊楽団など四日は黒田藩ゆかりの演目をご披露いたします。

福岡城の演舞台ならではの演目が盛りだくさん。

市民の皆様、会員皆様方もぜひお出かけになり、舞台出演の方々とともに楽しんでいただければ最高です。

会員からのよもやま話

先祖の家紋は、とつくり、二つ

会員 松井 俊規

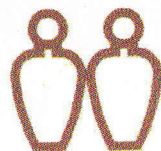
私の母方の先祖は加瀬家と称し、黒田藩おかかえの造り酒屋でした。早良郡曲淵の高祖城主原田信種の家老であった先祖が約三百四十年前に原田家が没落したので、その後曲淵村に居住して農業に従事した。しかし、やはり博多に移り住もうと決意し、その準備中に、ある夜神様からとつくり、二つを授かる夢を見た。それで加瀬の瀬は三すいに頼ると書き、即ち水に頼るので、造り酒屋を創業する事を決意し、当時姪浜の造り酒屋の名門、石橋家から養子を迎え、醸造技術と酒造免許を譲り受け、醸造業をはじめた。

これが成功し、回船問屋、質屋等も営み、大いに財を成し、黒田藩に融資するまでの富豪になった。

しかし、明治四年、廃藩置県で黒田藩と加瀬家も運命を共にした。

それで、十二代の私は現在、年金生活のきゆうきゆう自適です。修猷館から旧制福高、九大農芸化学を出て三楽酒造（現メルシャン（株））に定年まで勤務し、八十五歳ですがそこぶる元気で、健康優良、爺と自

称し、大いに飲んでおります。適量の酒は正に百薬の長、では適量とは？お酒二合、焼酎25度を六、お湯四で割ったものも二合、ビールなら中瓶二本、ワインはグラス二杯、ウイスキーもダブルで二杯、すべて適量は二なのです。



正に先祖の家紋の二を守り、飲み過ぎないように楽しく、充実した毎日を過ごしたいと思っています。

各務理事ご逝去

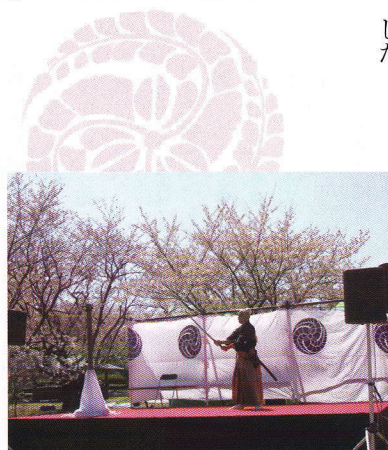
福岡城・市民の会設立当初より理事を務めていただいた各務 章氏（黒田奨学会理事長）が平成二十四年二月七日にご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

福岡城さくらまつり 関連イベント 観桜の宴

4月7日（土）多聞櫓中庭において市民の会主催の「観桜の宴」が催されました。母里忠一氏による黒田藩・古武道の披露に始まり、箏曲・吟道・舞踊・博多古民謡・博多わらい塾など、桜に唄い・桜に舞い・桜に踊り賑やかな祝宴になりました。

ソメイヨシノの花に囲まれて、観客の方々と共に春のひとときを満喫いたしました。



編集後記

福岡にお見えになる観光客の方々や市民の皆様を福岡城にお迎えするビクターハウス「福岡城むかし探訪館」がオープンいたしました。その運営に福岡市民の会が携わります。

当会は福岡城・鴻臚館をランドマークにと活動を続けてまいりましたが、やっと動き出したなあーと感無量でございます。

「新しい公共」支援事業も軌道に乗り、二十四年、二十五年と継続して取り組みたいと思っております。

会員の皆様方に、福岡城・鴻臚館に関する具体的な活動内容をお伝えして行きたいと存じます。

皆様方のお声をぜひお聞かせください。

新規会員名簿（平成24年4月4日現在）

正会員(個人)					
		黒重	木松	善史	弘郎 (23年度)
一般会員(個人)					
赤澤宮	ヒロ	山木中	口村尾	文良	雄 (24年度)
	一				司 (24年度)
	三				稔 (24年度)

編集・発行 鴻臚館・福岡城歴史・観光・市民の会

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15 読売福岡ビル7階
TEL 092-716-8238 FAX 092-716-8254
HPアドレス <http://fukuokajokorokan.npg.jp/>
E-mail fukuokajo@tos.bbq.jp
[デザイン・印刷] 城島印刷株式会社

福岡城市民の会

検索